

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	観光型ホテル （商品企画担 当）	来客数の動き	・3月の客室稼働率は前年の78.7%から今年は84.7%と6ポイント増加している。ここ3か月、毎月前年を上回っている。
		観光型ホテル （営業担当）	来客数の動き	・卒業旅行の若いグループ、家族旅行などの宿泊人数がかなり増加している。
	やや良く なっている	一般小売店〔衣 料品・雑貨〕 （経営者）	販売量の動き	・売上高は前年同月比95%であるが3月は年を通して7月、8月に次いで売上高の高い月であり、5%の減少は商品構成の変更による影響なので特に問題ない。3月～10月までの繁忙期の出足としては順調である。
		百貨店（担当 者）	来客数の動き	・継続的に好調を維持する食品や住居を始め、主力衣料においても来客数の増加傾向が出てきている。特に春物の紳士・婦人衣料が共に好調で、前年比10～17%ほどの増加をしている。要因としては前年3月の天候不順による不調の反動であると考えられるが、昨年未からの客単価増に加え、来客数においても今年に入り増加傾向であることから、景気動向としては良い方向に向かいつつある。
		その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）	来客数の動き	・例年、3月は12月について数字の上がる月ではあるが、今年は平日の来客数が例年に比べて15%増加している。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・年明けの住宅展示場への来場者数が若干増加傾向であった。さらにその後の3回の完成見学会の来客数も好調である。
	変わらない	コンビニ（経営 者）	単価の動き	・来客数は前年より増加傾向にあるが、単価が前年を下回っている。会社の人事異動や単身赴任のためのマンション探しの際に立ち寄ったと思われる客が例年より多い。
		コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・主要カテゴリーのうち、パン、おにぎりや弁当の米飯類、ラーメン、酒、雑誌の売上が前年同月比で10%前後減少している。買上点数も同様の落ち込みである。競合店出店による購買の分散もあるが、コンビニの価格では厳しい。ラーメンなどの新商品はコンビニの展開の方が早いですが、客は斬新さよりは結局価格で選んでいる。
		衣料品専門店 （経営者）	単価の動き	・販売量は若干減少しているが、客単価は上がっている。
		家電量販店（従 業員）	販売量の動き	・沖縄では、4月から地上デジタル放送の開始もあり、薄型テレビの売上は依然として好調であるが、白物家電の方は結構苦戦している。
その他専門店 〔書籍〕（店 長）		販売量の動き	・必要最低限の商品しか購入しない傾向がでてきている。以前は衝動買いなどもあったが、今はほとんど無くなってきている。	
その他専門店 〔楽器〕（経営 者）		販売量の動き	・例年、高校の合格発表後は売上が伸びるが、今年はそれが無く、例年より減少している。少子化やインターネット通販の影響を受けている可能性がある。他の部署の売上は増加しているため、全体としては横ばいである。	
高級レストラン （営業担当）		販売量の動き	・2店舗を展開しているが、売上の前年同月比は一方は20%増で、もう一方は20%減となっており、極端なのでどちらともいえない。	
観光名所（職 員）		来客数の動き	・施設利用者数は、3か月前の12月は前年同月比で110.8%、今月は3月28日現在で109.0%である。沖縄への入域観光客数は記録的な数字になる。来園者は、一般団体、修学旅行、学生等が中心である。	
やや悪く なっている	スーパー（企画 担当）	来客数の動き	・来客数が既存店ベースで前年同月比98%と前年を下回り、売上を底上げすることができず苦戦を強いられている。	
悪く なっている	商店街（代表 者）	客の様子	・中心商店街には観光客のリピーターが多く、単価的にはさほど上がらない。商店街自体も空洞化しているので新規の客は来ないという状況が繰り返されている。	
企業 動向	良く なっている	-	-	-

関連	やや良くなっている	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価が10～15%上昇している。
		不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き	・わずかではあるが、問い合わせや成約が増えてきている。
	変わらない	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引先からの値下げ要求が強く、価格競争が一段と進んでいる。
	やや悪くなっている	食料品生産業（財務総務担当）	受注量や販売量の動き	・原料の肉や副資材などの価格が上がっている。
		輸送業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・全体的な売上は増加しているが、契約単価の見直し、原油価格の高騰などにより原価が増加しているため薄利多売となり、結果的に利益は減少しており景気は悪くなっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業の経営者は景気回復に相当自信を持っており、強気な求人姿勢がうかがえる。今後もそういう強気さに変化は無い。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・求人の動きに大きな変化はみられず、新規依頼と契約終了とが同数に近い状態である。また決算期でもあるが、決算期需要はまださほど出ていない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数が増えているところも減っているところも両方あり、全体的に横ばいで推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月と比較すると、新規求人数は26.0%増の4,396人である。一般求人は8.9%増で3,086人（構成比70.2%）である。パート求人は99.7%増の1,310人（構成比29.8%）である。2月の新規求人は教育・学習支援、飲食・宿泊、運輸、医療・福祉、卸売・小売で増加し、複合サービス、不動産、建設、金融・保険、製造では減少している。有効求人倍率は0.1ポイント上昇し0.61倍である。月間有効求人数は10.6%増加の10,786人である。保育所の民間委託、新年度の契約切り替えにより保育士の求人が増えつつある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数の動きは県外が一段落しているが、県内はこれからである。県内求人の前倒し傾向が強くなっており、求人数自体は増加しているものの、これからの動向が気になる。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	